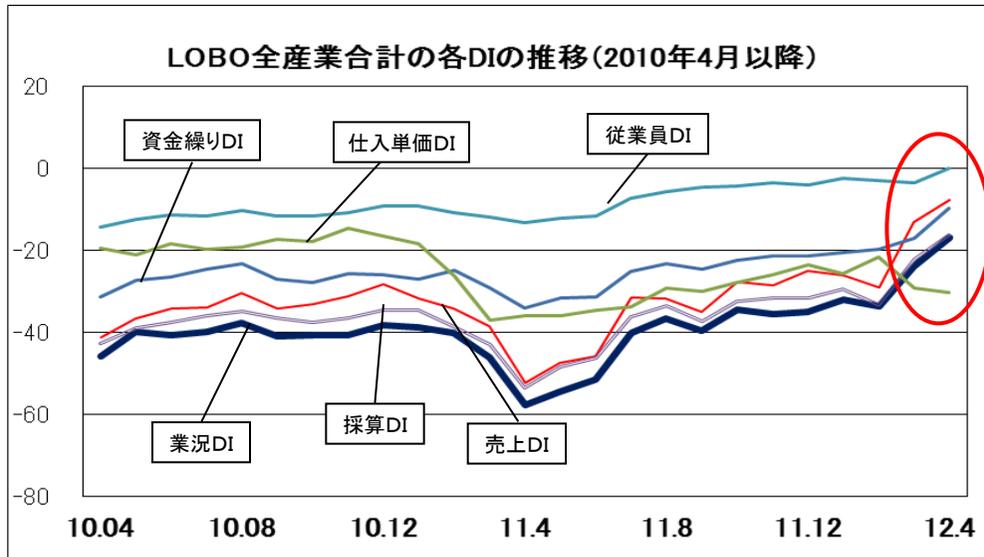




業況DIは、改善続くも、先行きは慎重な見方変わらず

ポイント

- ▶ 4月の全産業合計の業況DIは、▲16.8と、前月から+7.1ポイントと2カ月連続で大幅に改善。復興需要の波及効果が及び始めたことに加え、自動車の輸出増加に伴う製造業の改善などが要因。しかし、比較対象の前年同月(2011年4月)は東日本大震災後で業況DIが過去最大の悪化幅(前月比▲11.8)を記録。サプライチェーンの寸断による生産の停止・縮小や、自粛ムードによる消費の落ち込みなど、各地で景況感が大きく低迷した時期。実態は超円高の長期化、取引先の海外移転等に伴う受注の減少、原油価格の高止まりや電力料金の上昇によるコスト増などを背景に厳しい状況が続いている
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲20.2(今月比▲3.4ポイント)と、悪化する見込み。超円高や原油価格の高止まりの長期化に加え、今夏の電力供給不足による事業活動への影響懸念から、先行きは依然として慎重な判断となっている

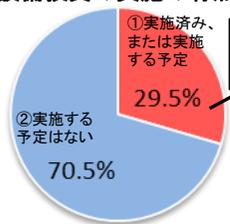


今年度の経営計画 (実施済みを含む)

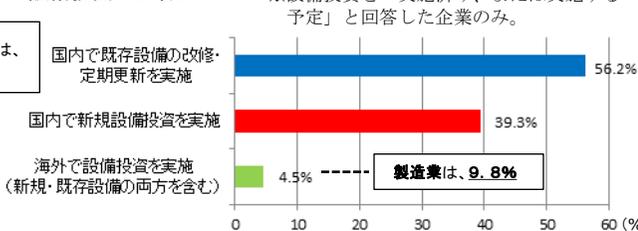
◆設備投資

- ▶ 今年度に設備投資を行う企業(全産業)は、29.5%。製造業は36.7%と、自動車等の一部業種で積極的な動きが見られるものの、先行きの不透明感から慎重な姿勢も見られる
- ▶ 設備投資の内容は、国内での「既存設備の改修・定期更新」が56.2%と最も多く、「新規設備投資」は39.3%

<設備投資の実施の有無>



<設備投資の内容>



[中小企業の声]

- ▶ 震災により被害を受けた設備の改修に注力 (八戸 水産食品製造業)
- ▶ 海外の仕入先企業が廃業となる予定だったが、自社への影響が大きいため工場を買収 (東京 化学製品卸売業)
- ▶ 取引先の海外での増産計画に伴い、関連工場の海外進出も加速。自社においても生産能力増強のため国内外で設備投資を実施 (名古屋 自動車部品製造業)

◆雇用(採用)

- ▶ 今年度に人員を「採用または採用予定」の企業(全産業)は、50.3%。「採用したいができない」が、21.9%に上る
- ▶ 採用の内訳は、国内で「正社員を採用」が64.3%と最も多く、国内で「非正規社員を採用」は31.8%

<人員の採用について>



[中小企業の声]

- ▶ 国内で新卒を採用したが、海外事業要員については今後も採用を計画 (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ 売上が低迷する中、人件費は経営の重荷となるため、退職者の補填に留める (御坊 農畜産・水産物卸売業)
- ▶ 技術職の人材が高齢化しているため採用したいが、即戦力になる人材がない (今治 織物製造業)

<採用の内訳>

